

## ◆聴覚障がい者の不安や不満

- ・聞こえないことが他人に分かってもらえない、理解してもらえないと感じる。
- ・災害時、何が起きているのか、どう行動したら良いのか不安。
- ・停電時、暗闇となるため、「逃げろ」の声は聞こえない。補聴器の電源も入らない。
- ・家庭での子供からの訴えが聞こえない、伝わらないため不便。
- ・病院の窓口、診察において手話通訳がなく、筆談を迫られる。

## ◆手話等の状況

### ◇プラス要素

- ・手話言語条例ができたことにより、市長の会見に手話通訳がついた。非常に良い。
- ・手話を学びたい人が増えたと感じる。積極的な雰囲気を感じる。

### ◇マイナス要素

- ・観光施設や市の施設にはまだ手話通訳が居ないのは残念。
- ・ケーブルテレビなど映像での手話通訳がない。
- ・病院の待ち時間中、テレビの字幕表示がない。

## ◆今後の希望

### ◇避難所運営

- ・避難所に手話通訳の配置。またはコミュニケーションボードの配備を。
- ・聴覚障がい者も含めた避難訓練を継続してほしい。訓練をしないと聴覚障がい者がどう行動したらよいのか分からないし、健常者もわからないと思う。

### ◇観光

- ・観光PRを手話で行うと良い。
- ・メガネ会館や西山公園、サンドームなどの観光地に通訳者がいると良い。いれば市外、県外の知人に紹介できる。
- ・観光地、ホテル等での案内表示を工夫してほしい。E V内に観光案内、通訳者のいる観光場所などを掲示する方法でもよい。
- ・食事の際、ドライブスルーが出来ず、店内飲食に限定される。タッチパネルが良い。

### ◇手話の普及にむけて

- ・教育現場で手話に親しむ機会があると良い。
- ・手話を指導できる人が不足している。増やす方法を検討してほしい。